

イチョウの大型の葉

Large leaves of *Ginkgo biloba*

久保田 信

裸子植物の針葉樹、イチョウ *Ginkgo biloba* の葉は、通常は扇形で、中央部が浅く割れることから種小名には“2つの裂片 (two lobes)”の意味が付けられている。原産地・自生地は不明だが、我が国では仏教寺院などに盛んに植えられ、古くに薬種として伝来した。イチョウは長寿で、和歌山県下を含め各地に巨木が点在している。また、果実のならない雄株は街路樹としてよく利用されており、いわゆる銀杏並木として知られ、国土交通省の2007年の調査によれば、57万本が植えられており、樹種別では最多本数であるとのことである (Wikipedia)。

これまで著者は半世紀ほどイチョウの葉を日本各地で見てきたが、最近、驚くべきサイズの葉が和歌山県白浜町をはじめ、主に近畿圏で見つかったので報告する。まず、和歌山県白浜町の大型の葉は、湯崎保育園の1本の樹木に落葉せずについていたもので、最大幅が158mmあった (図1)。この木は保育園が設立した1974年から40年を経過した若い木で、最近、剪定をした。

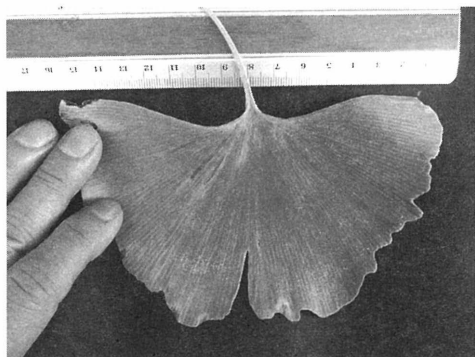


図1 和歌山県白浜町湯崎保育園の
大型のイチョウの葉

このようなイチョウの大型の葉に遭遇したのは、京都市松ヶ崎の京都工業繊維大学付近の街路樹で、黄色になって道路に落葉していたのを2011年12月9日に発見したのが最初である (図2)。この時以来、日本各地で多数の巨木や老木を調査したにもかかわらず、他の2箇所で見つかったのみである：2012年1月22日、東京大学赤門前の街路樹 (図3)；2012年9月15日、大阪大学構内の街路樹 (図4)。

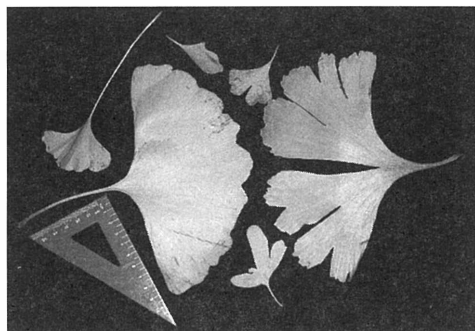


図2 日本各地の大型のイチョウの葉
(京都市松ヶ崎)

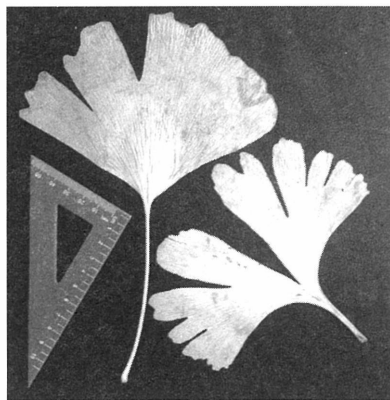


図3 日本各地の大型のイチョウの葉
(東京大学赤門前)

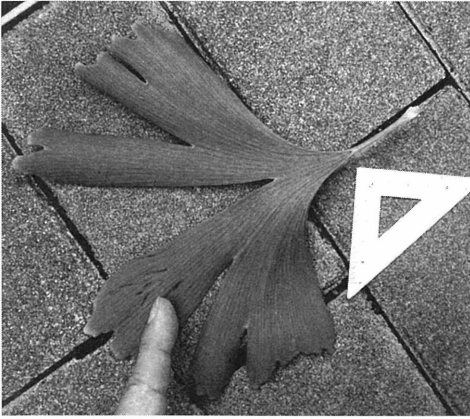


図4 日本各地の大型のイチョウの葉
(大阪大学構内)

イチョウの葉の形や大きさは、葉の細胞がつくられる位置と遺伝子で決定されているが(日本科学未来館)、剪定をすると葉の少なさをカバーして光合成量を増すように大きくなるということがあるらしい (<http://fukuokazouen.biz/>

pdf/sentei_koyo.pdf)。上記の全ての葉が剪定を受けた後で大型化した可能性があるか、今後の検証課題となろう。

謝辞

白浜町の情報をご教示下さった小山康裕氏に深謝致します。

引用文献

日本科学未来館ブログ <http://blog.miraikan.jst.go.jp/other/20141121post-558.html>
Wikipedia. <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%83%81%E3%83%A7%E3%82>

(〒649-2211 西牟婁郡白浜町459)
京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所